

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 四上』年間指導計画・評価計画

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。  
 △知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

- 〔第3学年及び第4学年〕目標（「学びに向かう力、人間性等」の単元目標）  
 (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。  
 (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。  
 (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	—	四年生で学ぶこと							
4	4 (話す聞く2)	言葉に親しもう	◇口声に出して読んだり、わかりやすく話したりすることや、内容を聞き取ったりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。						
4	2 (話す聞く2)	わたしは、だあれ	◇「わたしは、だあれゲーム」を楽しみながら、相手のヒントを聞き、正解に必要なことを質問したり聞いたりする。  △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ  ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	1・2	◎質問し合いながら、自分のカードに書いてある名前をあてるという学習の見通しをもつ。  1. 物の名前をカードに書く。 (1) 物の名前をカードに書く。  2. グループでカードを交換する。 (1) カードはグループでまとめて他のグループと交換する。書かれている名前がわからないようにする。  3. カードを確かめ、相手に渡す。 (1) カードを1枚もらって2人で組みになる。相手のカードの名前を確かめてから渡す。自分のカードの名前は見ない。相手の名前は知っているが自分の名前は知らないようにする。  4. カードに書かれた名前をあてる。 (1) 相手からのヒントを元に質問し合い、自分が何になっているかをあてる。 例) A「わたしは、こういうものです。」(カードを相手に見せる) B「ああ、あなたはよく空を飛んでいて、気持ちよさそうですね。」【ヒント】 A「気持ちよさそうに見えますか? どんな季節によく見かけますか?」【質問】 B「秋によく見かけます。めがねも似合っていますよ。」【ヒント】 A「わたしはとんぼですか?」 B「そうです。」  ◎質問やヒントを出し合いながら伝え合うおもしろさや難しさを振り返る。	◎自分が何なのかがわからないことを楽しみ、予想したり、ヒントを出し合ったりしながらあてることを確認する。  ◎はじめは昆虫の名前・乗り物の名前などに限定することで、いくつかの質問で名前を見つけられるようにする。やり方がわかったら、物の名前だけでなく、職業の名前等から考えるようにする。  ◎グループで自分たちのグループで出された名前を見合い、どんなヒントを出すかよいか話し合うようにする。そのカードはグループごとに交換し、中身がわからないようにしてからカードを分ける。  ◎グループの中で2人組になり、「わたしは、だあれゲーム」をする。クラスの実態に応じて、3～4人組になり、1人が名前をあてるときに、2～3人がヒントを出したり質問に答えたりしてもよい。  ◎やり方がわかったら、職業の名前や歴史上の人物の名前から選び、会話をする。例えば電車で乗り合わせたと仮定して会話を続け、最後に自分はどんな職業だと思ったかを伝え合う。仮想した役になってやりとりをすることを楽しみながら、会話するおもしろさを感じさせたい。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア)  ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)  【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。		カード／質問

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	2	春のうた	<p>□繰り返し音読をしながら、言葉のリズムや響きを味わい、イメージの広がりを楽しむ。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p>	3	<p>1. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クック。」の読み方を話し合う。</p> <p>2. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック。」の読み方を工夫しながら音読する。</p>	<p>○一連と四連で「ほっ」が繰り返されていることに注目させる。「まぶしい」から、「おおきなくもがうごいてくる。」と、感覚が目覚め、気持ちも高ぶってくることを理解させ、それが「ケルルン クック。」の鳴き声に反映されるように感じさせたい。</p> <p>○詩全体が「春のうた」ではあるが、それを支えているのは「ケルルン クック。」の響きである。間や声の調子、リズムなどを考えて音読させるようにする。</p>	<p>◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。</p>		音読／作者／題名
		あり	<p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	4	<p>1. 「あり→ありっこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読する。</p> <p>2. 「ありっこないあり」の姿を、頭の中にイメージを描いて音読を楽しむ。</p>	<p>○《「あり」だから「ありっこない」なんだ》という音の連鎖への気づきを大事にして、繰り返しを楽しみながら読むようにさせる。</p> <p>○想像したありの姿のイメージが膨らむような音読、歌うように繰り返しのフレーズを楽しむ音読を工夫して調子よく読ませたい。</p>			様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	10 (書く 3)	一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって「この日」のできごとを日記に書く。						
		白いぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるところ。 ⇒思判表B(1)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ  ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ  ☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、親切にしたり、真心をもって接することについて考える。	1～3  4・5  6・7  8～10	○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。  <b>確かめよう</b> 1. 場面ごとに松井さんが出会った人やもの・ことをまとめ、松井さんの気持ちを想像する。 (1) 初発の感想をノートにまとめて紹介し合う。 (2) 全体を4つの場面に分け、それぞれの場面で松井さんが出会った人や、もの・ことをノートなどに整理する。 (3) 場面ごとの松井さんの気持ちを、(2)で整理したものに書き加える。  <b>考えよう</b> 2. 作品の特徴である、匂いや色を表す言葉を見つけ、その言葉と場面の様子や人物の気持ちとのつながりを考えて話し合う。  <b>深めよう</b> 3. 登場人物の中で、特に気になった人物について考えや感想をもち、話し合う。  <b>広げよう</b> 4. 松井さんになったつもりで、「この日」のできごとを日記に書く。 (1) 今までに学習したことを生かして書く。 (2) 書いた日記を友達と読み合う。  ○学習を振り返る。	○作品との出会いを大切にし、最初の印象をノートにメモさせて紹介し合うようにする。 ○「どんなところが楽しかったか」「どんなところが興味を引かれたか」「どんなところが不思議だったか」など、具体的に示せるようにする。 ①まず、作品の全体を見渡す。4つの場面に分かれていることを確認し、それぞれの場面で、松井さんがどのような人物やもの・ことに会い、それに対してどのような思いをもったか、行動をしたかを考えていくようにする。 ②ノートなどに、表の形で整理すると考えをまとめやすいことに気づかせる。  ○「ここが大事」にあるように、景色や場面の様子が詳しく書かれている表現を「情景描写」という。情景には、色を表す表現や、匂いを表す表現も含まれている。情景描写には、その場面の雰囲気や、その景色を見ている人物の心情などが重ねられていることがある。情景描写を丁寧に読むことで、人物の心情などをより深く想像することができる。  ○人物を捉えるうえで、その行動（地の文）や語り口（会話文）は大きな役割を果たしている。作品に登場する人物について考えるとき、こうした表現に着目することで、その人物像を浮かび上がらせることができる。 ○p.26の「言葉」とも関連させ、松井さんが関わった人物に着目しながら読むと、それぞれの登場人物の人物像が浮かび上がったり、その人物と接している松井さんの気持ちや人柄がより具体的に想像できたりする。  ○日記を書くにあたって、気をつけるべきことが2つあることを確認する。そのために、本文中の言葉を適宜引用するようにする。 ○p.25脚注の文例も参考にしながら、松井さんの人柄や、これまでの授業で学んできたことを生かして書くようにする。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 （〔知識及び技能〕(1)オ）  【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）  ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）  ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）  【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。	じょうけいを読む	文／漢字／物語／場面／気持ち／地の文／様子／会話／登場人物／日記／性格／言葉／情景／情景描写



月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	2	漢字の広場 ① 漢字の部首	△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。  △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。  1. 共通している部分から、何に関係のある漢字かを考える。  2. p.30の下段の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながり等について話し合う。	○漢字の部首について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ○部首についての知識は、p.54からの『漢字辞典の引き方』の学習に結びつく。  ○「漢字を主に意味のうえでなにか分けするときに、目印とする部分」が「部首」であることをおさえる。 ○「部首と漢字の意味には深いつながりがある」ことを「日」「木」を部首とする漢字をもとに、具体的に考えられるようにする。  ○部首は、「へん」だけではなく、また、「へん」が部首とは限らない場合がある。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）  【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見直しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。		あし／かんむり／つくり／部首／へん／漢字
	2 (書く2)	漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。  △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ  ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。  6. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。  7. 作った文を互いに発表し合う。  ○学習を振り返る。	○p.32の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○各自ばらばらに読むのではなく、言葉一つ一つを全員で声に出して読むようにし、読み方を確認できるようにする。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。  ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。  ○正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ○書いた文や文章を互いに読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合い、自分の文や文章のよいところを見つけるようはたらきかける。  ○漢字の部首について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）  【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ）  【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。		漢字／言葉／様子



月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5～6	10 (書く3)	花を見つける手がかり	<p>□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p>	3	<p><b>確かめよう</b> 5. 文章の冒頭部分を読み、実験の筋道をたどる。 (1)もんしろちょうについて知っていることを話し合う。 (2)文章で明らかにしようとしている問題と予想される答えを、題名と①②段落をもとに話し合う。</p>	<p>○題材に関する既有知識を思い出させる。 ○題名と①②段落から「もんしろちょうは何を手がかりにして花を見つけるのか」と問いを立て、「花の色か、形か、においか」と予想したうえで解明に向かう文章であることをおさえておく。③段落以降に実験・観察の経過が書かれていることを確認する。</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。</p>	<p>けっかとけつろん／事実と意見</p> <p>文／漢字／記録／筋道／文章／題名／段落／結果／結論／気持ち／発表の様子／つなぎ言葉／言葉／事実／意見</p>	
				4	<p>6. 段落分けや「始め・中・終わり」の構成を確かめ、初読の感想をまとめる。</p>	<p>○単元名やリード文から、実験の筋道をたどり、実験・観察とそこから明らかになったことを説明するという単元の流れを確認する。</p> <p>○これまでに読んだ本の中に昆虫や動物の秘密を解き明かすものがあつたかどうか、経験を確認する。</p>			
				5～8	<p><b>考えよう</b> 7. 問題と実験からわかった事実、そこから筆者が導き出した結論との関係に気をつけて文章を読む。 (1)三つの実験について、それぞれ、「使ったもの」「そのとくちょう」「実験けっか」「けつろん」に分けて表にまとめる。 (2)⑭段落で予想される反論を取り上げている意味を考えて、話し合う。 (3)⑤⑥段落に着目し、日高先生たちがもっていた「もう一つの疑問」について話し合う。</p>	<p>○1時間につき、一つの実験を扱う。 ○ノートに実験についてまとめる際、最初の実験は全体で確認しながら行い、徐々に二人組や個人で行うようにする。 ○「実験1」は、「まず」という言葉に着目させる。 ○「四種類の色の花」と「生まれてから花を見たことのないもんしろちょう」を使って実験し、花の色によって集まり方が違うという観察結果、「生まれながらに、花を見つける力を身につけているよう」（⑥段落）という結論を得たことをおさえる。 ○「実験2」は、⑨段落の「そこで、今度は、」と始まる言葉に着目させる。 ○「においのしないプラスチックの造花」と「色は、花だのときと同じ」花を使って実験し、花の色によって集まり方が違うという観察結果を得たことをおさえる。 ○「実験3」は、⑩段落の「次の実験では、」という言葉に着目させる。 ○「四角い色紙」と「用意した色は、前と同じ四種類」を使って実験し、「色紙にももんしろちょうは集まる」「花の色によって集まり方が違う」という観察結果を得たことをおさえる。 ○⑭段落が三つの実験のまとめになっている。「このような実験から」という言葉に着目させ、気づかせるようにする。 ○p.41の花の写真にも注目させる。四つの花に共通しているのは、おしべやめしべが黄色だということである。ダリアは⑭段落の反論と対応している。 ○ここまで「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を追って読んできたが、もう一度「実験1」に着目し、その意味を考えるようにする。「書かれていなかった疑問」を明らかにする。 ○学習活動の中で、「ここが大事」にある結果と結論、事実と意見の区別を扱う。教材文には、事実と筆者の考えや推論が交互に書かれている。違う色で線を引かせるなどして、違いを意識させたい。</p>			
				9～11	<p><b>深めよう</b> 8. 実験の進め方や結論の出し方について話し合う。 (1)三つの実験を比べて、考えの進め方の特徴を捉える。</p> <p><b>広げよう</b> 9. 児童が筆者とともに問題を追究しているような、文章のおもしろさについて考える。</p>	<p>○「花の色か、形か、においか」と予想したことと、実験に使った花・造花・色紙との関係を考えさせる。 ○結論を導くにあたって、予想したことを一つずつ消去していったことに気づかせる。</p> <p>○問題を解明していく考えの筋道がそのまま描かれていること、「～していきます」「～してみました」などの臨場感のある表現が使われていることなどに着目して考えるようにする。</p>			
				12	○学習を振り返る。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	4	分類をもとに本を見つけよう	<p>△学校や地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ</p> <p>☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す</p>	13・14	<p>○分類記号を手がかりに本を探すという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>10. 図書館の本の分類の仕方を知る。 (1)身のまわりで、分類されているものを考える。 (2)図書館に行き、本が内容ごとに分類され置いてあることを確かめる。</p> <p>(3)「日本十進分類法」の仕組みを知る。 (4)ラベルの記号について知る。</p>	<p>○図書館の本が内容ごとに分類されているのを知ること、必要な本を自分で探すための基礎的な知識となる。</p> <p>○本教材の学習を行うためには、自校の図書館の環境整備が必要である。分類配架、分類案内板の整備、日本十進分類表の掲示などを行っておきたい。</p> <p>○スーパーマーケットの商品など、身のまわりで分類してあるものを考えさせる。</p> <p>○図書館の本も内容ごとに分類されて置かれているので、必要な本を容易に見つけ出せることに気づかせる。</p> <p>○学校司書の協力を得て、「日本十進分類法」についての説明を聞く活動も考えられる。</p> <p>○小学校の図書館だけでなく、中学校や高等学校の図書館、公共図書館でも、「日本十進分類法」により本が分類されていることにもふれる。</p> <p>○分類記号の読み方に注意する。</p> <p>○図書記号は、各学校の図書館の付与の仕方に合わせて説明する。</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。</p>		<p>巻冊記号／所在記号／請求記号／図書記号／分類記号／ラベルの記号／作者／漢字／日本十進分類法</p>
6	3 (話す聞く3)	メモの取り方をくふうして聞こう	<p>◇メモの取り方を工夫したり、質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えをもつ。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア</p>	1	<p>○校長先生や図書ボランティアの話聞き、聞き取りメモを作成するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p><b>話そう・聞こう（重点）</b></p> <p>1. メモを取りながら、お話を聞く。 (1)教科書を開かずに、p.50・51のお話を聞き、メモを取る。</p> <p>2. 聞いた内容について、メモをもとに友達と話し合う。 (1)メモを見せ合いながら内容を確認する。メモの取り方を交流する。</p> <p>3. 自分の考えを伝える。 (1)自分が作るとしたらどんな言葉を選ぶかを考え、発表し合う。</p>	<p>○話の中心に気をつけて友達の話聞くこと、大切な情報を明らかにすることができるよう意識づける。</p> <p>○メモに書くこと、書いたメモのどこがわかりやすいのかを確かめる。</p> <p>○必要な情報をメモに書けるように、大事なことを確かめながら聞かせる。 (メモを書く時の注意点：簡潔に書く、箇条書きなどで書く、記号や図・絵などを交えて書く、大事なことやその理由などをわかりやすく書くなど。)</p> <p>○考えた言葉を交流する活動をとおして、メモが生かされることを実感できるようにする。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えをもつている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）</p> <p>【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。</p>		<p>メモ／場面／言葉／様子／漢字／聞き取りメモ／伝える／理由／ポスター／縦書き／横書き／箇条書き</p>
				2・3	<p>4. メモを取りながらお話を聞く。 (1)p.52を教師に読んでもらい、実際にメモを取って友達と比べる。 (2)メモの取り方を確認する。 (3)互いにメモを取りながらインタビューし合う。</p> <p>5. 聞いたことをまとめる。 (1)聞いたことをメモをもとに発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○p.53の聞き取りメモを読み、横書きのメモの仕方、箇条書きの方法や記号の使い方、自分の考えのメモの仕方などを確認する。</p> <p>○ペアで互いに聞きたいことを質問し合い、メモを取り合うことで、メモの取り方が工夫できるようにする。メモした内容を感想の交流に生かせるようにする。</p> <p>○日常生活においても、大事なことを確かめながらメモを取りながら聞くことができるように意欲づける。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	2	漢字辞典の引き方	<p>△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。</p> <p>2. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。</p>	<p>○教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。</p> <p>○漢字の読み方や意味、使い方などを知るには、漢字辞典を活用するとよいことに気づかせ、漢字辞典に興味をもたせる。</p> <p>○教材文にそって漢字辞典の引き方を確認させ、理解させる。漢字辞典は、部首索引・音訓索引・総画索引のどれかを利用して引くことを確認させ、実際に引きながら確認するようにする。辞典によって、漢字の並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。また、筆順が載っているなど便利な機能もある場合があるので、それに気づかせ、辞典の活用の幅を広げることもできる。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。</p>		<p>漢字辞典／総画数／漢字／音／訓／言葉／部首／画数／音訓索引／総画索引／部首索引／訓読み／音読み／五十音順／片仮名／平仮名／見出し／索引／順序／筆順／漢字の成り立ち</p>
				2	<p>3. 設問に従って、部首索引・総画索引・音訓索引を活用して漢字を調べる。</p>	<p>○一人一人が独力で、それぞれの引き方で調べられるようにする。</p> <p>○どの索引を使えば引きやすいかを見当づけられるようになることも大切。見当をつけさせて引かせ、友達どうしでどの引き方がわかりやすかったのかを発表させると、さらに引き方に慣れさせることができる。</p> <p>○知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくことよい。</p>			
					○学習を振り返る。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	10 (書く 10)	三 伝わりやすい組み立て を考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。						
		リーフレットで知らせよう	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ  ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ  ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア  ☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。	1  2・3  4～6  7～9  10	○「学習の進め方」を読み、何を誰に報告するのかを考え、学習活動の見通しをもつ。  <b>決めよう・集めよう</b> 1. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。 (1) 自分が調べたい課題を見つける。  (2) 見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。  <b>組み立てよう（重点）</b> 2. リーフレットの組み立てを考える。 (1) メモの中から取り上げたい項目を洗い出す。  (2) 伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。  (3) グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。  <b>書こう・読み返そう（重点）</b> 3. リーフレットを作り、読み返す。  <b>伝え合おう</b> 4. 読み合う。  ○学習を振り返る。	○相手意識や、目的意識をしっかりともたせる。 ○学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。  ○学校図書館や各種資料をもとに取材活動を行うようにする。  ○社会科の教科書や資料などをもとに、疑問に思ったことなどから課題が設定できるようにする。 ○教師が教えるのではなく、児童が発見できるようにする。  ○それぞれの見学メモが一覧できるようにし、見学前に考えていた課題と見学してわかったことが比較できるようにする。 ○見学してさらに疑問に感じたことなども調べ、メモに書く。 ○何を伝えたいか（リーフレットに書きたいか）を決める際には、読む人が誰かを意識させるとよい。  ○見学メモや調べたことメモの中から、特に伝えたいことを探す。p.60のように、メモに「くふう①」と番号をつけるなど、メモに直接書き込みながら、取り上げる要素を考えさせてもよい。  ○p.61上部のような下書き用紙を使い、リーフレットの構成を考える。伝えたいことが明確になるような構成を児童に考えさせたい。参考としてさまざまな構成（割り付け）例を提示するとよい。 ○前時から使っていたメモを直接下書き用紙に貼り、構成を考えるとよい。  ○引用資料やグラフ、出典を適切に用いるように指導する。その際、書く内容に対してどのような図やグラフがあるとわかりやすくなるか、客観的な資料を使うことで、どのような点が明確になるかをおさえておくようにする。  ○下書き用紙と見比べ、必要なことが抜けていないかを確認する。 ○特に、見出し、文末表現や敬体の表現について丁寧に指導する。 ○見出しやイラストの工夫などについてもあわせて指導したい。読む人を考えた工夫がなされているかについて、再度確認する。 ○かぎの使い方、直し方などを確認する。  ○クラスで交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。 ○完成したリーフレットは、想定した読み手に合わせた場所に展示できるとよい。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）  ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）  ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）  ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）  【態度】積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。	効果的に伝える	課題／リーフレット／組み立て／漢字／資料／説明／効果的に伝える／読み返す／出典／引用／見出し／図／様子／言葉／文／「」／文章

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6～7	4 (書く 1)	短歌の世界	<p>△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にす る。</p> <p>☆図書館活用：短歌への関心を広げる。</p>	1  2・3  4	<p>○p. 64・65を読んで、学習のめあてをつかむ。</p> <p>1. 短歌の特徴を知る。</p> <p>2. 解説を読みながら、それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。</p> <p>3. 好きな短歌を選んで、書き写したり、感想を書いたりする。</p>	<p>○短歌の特徴をつかみ、短歌を読み、リズムを感じたり、情景をイメージしたりすることをおさえる。</p> <p>○p. 64の持統天皇の歌をもとに、音数を確かめる。</p> <p>○写真などを手がかりにしながら、どんな情景や心情が描かれているのかを頭の中に思い浮かべさせる。 ○リズムや響きを感じ取ることが大事にしたい。 ○音読しての感想を自由に言わせてもよい。</p> <p>○リズムを意識しながら、何度も声に出して読ませる。また、気に入った短歌を選んで、「紹介カード」を書き、友達どうしで交流させる。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。</p>		短歌／漢字／言葉／理由／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	漢字の広場 ② 漢字の音を表す部分	△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。  △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ  △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。  1. 「寺・時」「板・飯・坂」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。  2. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。	○漢字の音を表す部分について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。  ○全ての漢字に「音を表す部分」があるわけではない。ここでは、漢字の中には「音を表す部分」をもつものがあることに着目できればよい。なお、「形声文字」の語は五下で学ぶ。  ○部首と同様に、音を表す部分が、偏旁冠脚のさまざまな位置にあることがわかればよい。  ○提示の文を各自で音読する。 ○この学習をとおして、未習の漢字でも、音を表す部分を手がかりに、経験的に読み方を推測できることに役立てればよい。  ○調べた漢字を使う熟語を集めたり、短文を作ったりするとよい。 (例)「体育館の前で水道管の工事が始まりました。」 ○漢字辞典や巻末の『漢字を学ぼう』などを活用して調べる活動を十分に取り入れ、興味・関心を喚起できるようにする。  ○「主・住・注・柱」など、例示の漢字を使う熟語を探したり、短文を作ったりして、それぞれの読み方を声に出して確かめるとよい。 (例)「主語・住所・注意・電柱」 (例)「短期間だったが、登校の列の先頭を歩いた。」	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）  【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。		漢字／部首／文／漢字辞典／音訓索引
	2 (書く2)	漢字の広場 ② 三年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。  △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ  ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。  7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。  8. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。  ○学習を振り返る。	○p.72の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる病院の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。  ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。  ○敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ○正しく漢字が使われているかどうかを確かめ合う。 ○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。  ○漢字の音を表す部分について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）  【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）  【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	10 (話す聞く2)	四 登場人物のせいやくや、気持ちを想像して読む	□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりする。						
7		ぞろぞろ（落語）	<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>□登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>1・2</p> <p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p><b>確かめよう</b></p> <p>1. 初読の感想をまとめる。 (1) 落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目して全体を見渡す。</p> <p>(2) 場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読み、落語のおもしろさを実感する。</p> <p>3～5</p> <p><b>考えよう</b></p> <p>2. 会話から、場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読む。 (1) 茶店のじいさんの「ご利益」に対する考え方が、落語のはじめと終わりでどのように変わったかを考える。</p> <p>(2) 茶店のじいさんのせりふと、床屋の親方のせりふを手がかりに、二人はそれぞれどのような人柄だと思ふか、感じたことを話し合う。</p> <p>6～8</p> <p><b>深めよう</b></p> <p>3. 落語がいちばん盛り上がる場面を考え、工夫して音読する。 (1) 場面の展開をもとに、落語がいちばん盛り上がるころを考えて、音読したり演じたりするときに生かす。 (2) p. 89の音読記号などを使いながら、工夫して音読する。</p> <p>9・10</p> <p><b>広げよう</b></p> <p>4. 好きな場面を選んで、音読したり、落語のように演じたりする。 (1) p. 89の音読記号や、読む時の気持ちを書き込んだ音読台本などを作って演じる。 (2) 音読を聞き合い、友達が工夫しているところなどを見つけて感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○落語のおもしろさにふれることが、まず大事である。</p> <p>○登場人物の様子を想像して読み、音読したり、落語のように演じたりしてみるという単元の見通しをもたせる。</p> <p>○落語の基本的な話の構成の一つに、繰り返しがあつて繰り返しの効果を考えながら声に出して読むようにする。</p> <p>○登場人物を具体的に想像すると、せりふの言い方などがイメージできる。</p> <p>○場面の最初と最後を対比させて、変容を捉える読み方は、文学的文章を読むときには大切である。おじいさんの「ご利益」に対する考え方の変化を捉えるようにする。</p> <p>○せりふの言い方一つで、人物の性格や人柄が想像できる。</p> <p>・茶店のじいさんの言葉の敬語表現に着目させる。「～参りました。」「お初に～」「～ございませう。」</p> <p>・床屋の親方の言葉に着目させる。「初めまして。」「～ござんす。」「あるだけのぜにを～」</p> <p>○p. 90の「言葉」の学習も、適宜取り入れるようにする。</p> <p>○音読する場合は語り口の強弱や速さ、間などに注意が必要である。p. 89の「音読記号のれい」をもとに、その時の「気持ち」なども入れておくとよい。</p> <p>○落語の最初から最後までを演じようと思うと、児童にとっては大きな負担になりかねない。自分が演じてみたい場面や人物にしばって練習や発表をさせていくようにする。</p> <p>○友達の手伝った表現は、ぜひとも仲間どうしで交流して相互評価させたい。</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (【知識及び技能】(1)イ)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Aウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ)</p> <p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。</p>	読み方をくふうする	<p>唄家／落語／落語家／話芸／文／聞き手／漢字／登場人物／繰り返し／性格／せりふ／結果／言葉づかい／音読記号／音読／場面／身ぶり／様子／間／言葉／話し手／話し言葉／気持ち／会話／解説／伝える</p>	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	1 (話す聞く1)	「夏の思い出」記者になる	<p>◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	1	<p>○夏休みの思い出を友達から聞き出す活動をおして、インタビューの仕方や聞くことの方法について学ぶという学習の見直しをもつ。</p> <p><b>話そう・聞こう（重点）</b> 1. グループでインタビューをする。 (1) 4～5人のグループに分かれ、「記者会見の場」を設定して、一人がインタビューを受ける人、残りがインタビューの役になって、インタビューを行う。 ①インタビューを行う（5分間）。 インタビューの際のルール *同じ質問はできない。 *答えにくいことには「ノーコメント」と言う。 ②うまく尋ねられたこと、もっと尋ね方を変えたほうがよいところ、うまくできなかったところなどを出し合い、改善の方法を話し合う（5分間）。 ③役割を交替してもう一度インタビューを行う（5分間）。 ④尋ね方がよくなったところ、まだまだなところを確かめ、改善の方法について話し合う（5分間）。 (2) 相手に詳しくきくことを目的に、役を交替してさらにインタビューを行う。 (3) インタビューの仕方、話し方の工夫点などについて確かめ合う。 ○学習を振り返る。</p>	<p>○どんな尋ね方をすればいいのか、どのように答えればいいのか、夏休みにどんなことをしてどのように思ったのかなどについてあらかじめ考えさせておく。</p> <p>○インタビューの数が多くなりすぎないように気をつける。</p> <p>○はじめは、一問一答式でもよい。</p> <p>○相手の答えを引き出しやすい質問となるように工夫させる。</p> <p>○相手の気持ちを損ねないで尋ねる（話しやすい気持ちにさせる）よう気をつけさせる。</p> <p>○具体的な事柄やその時の気持ちなどを尋ねたときの相手の反応などを確かめさせる。</p> <p>○「場」の雰囲気の大切さにも気づかせるようにしたい。</p> <p>○先に質問した人の話を掘り下げてきいたり、質問に対する答えにさらに質問をするなどで、詳しい話を引き出せるようにできるとよい。</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）</p> <p>【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見直しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。</p>		インタビュー／記者／質問

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	11 (話す聞く6, 書く5)	五 写真などの図のよさを 知り、活用しよう	◇■写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき、写真や図を効果的に用いて表現する。						
9	6 (話す聞く6)	写真をもとに話そう	◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。  △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ  ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア  ☆特別活動（朝の会など）：メモをもとにスピーチをする。	1  2・3  4・5  6	○単元名やリード文を読み、いちばん伝えたいことをどのようにして伝えたらよいかについて話し合い、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。  <b>決めよう・集めよう</b> 1. 話すための写真を選ぶ。 ・p.94・95の4枚の写真を見て、写っているもの、写真の撮り方の特徴を整理する。 (1) 話す写真を決める。  <b>組み立てよう（重点）</b> 2. 読み取ったことを整理し、組み立てを考える。 (1) p.96を参考に読み取れることをメモにまとめ、組み立てを考える。 ・写真を見て気づいたことや想像したことをメモにまとめる。 ・メモをもとに、話す構成を考える。 ・北原さんの発表を参考にして、話す練習をする。 ・グループで聞き合い、感想や意見を交流する。  <b>話そう・聞こう</b> 3. 発表する。 (1) メモをもとに写真を見せながら発表する。 ・教科書の写真を使って発表するだけでなく、自分の写した写真や、探してきた写真をもとにして話す活動も取り入れる。 ・写真を決める。 ・写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ・メモをもとに話す構成を考える。 ・発表し合う。  <b>伝え合おう</b> 4. 感想を伝え合う。 (1) 自分や友達の発表を振り返る。 ・写真のどの部分からそう考えたのか、相手にわかるように発表することができたか、人によって異なる見方や考え方があったかどうか確かめる。 ・話すときの観点や聞くときの観点に気をつけて確かめる。  ○学習を振り返る。	○いちばん伝えたいことをはっきりさせ、理由や事例をあげながら、筋道を立てて発表することを理解させ、意識づける。  ○写真は、撮った角度や位置、トリミング（切り取り方）などによって伝えられる（伝わる）意味・情報が変わってくることや、それらを意識して撮っているものであることなどを理解させる。  ○図表や絵・写真などから読み取る経験をする 것도学習のねらいとなっている。 ○p.96の「北原さんのメモ」と「春田さんのメモ」を参考に、「気づいたこと」「想像したこと」等をメモにまとめさせる。 ○その他の写真を加えてもよい。 ○選んだ写真を見て、写っているもの、動きや大きさ、撮った角度や位置、トリミング（切り取り方）などに注目させる。 ○写真から情報を取り出し、自分なりの価値づけを行ったり、受け取り方の違いを共有したりする。 ○ノート（ワークシート）にメモをまとめ、その後に話の組み立てを考えるようにする。 ○生活班などで聞き合うようにする。 ○写真を手に持って見せる場合は、見せ方にも気をつけるようにする。  ○写真を見比べて、いろいろな違いを交流させる。 ○写真を持ち寄るときは、同じような撮り方をしている写真や、異なる撮り方をしている写真等を取り上げるとよい。  ○「伝えたいことをはっきりさせていたか」「理由や事例などをあげながら話すことができたか」「筋道を立てて発表することができたか」など、話すときの観点を示しておく。 ○「写真から読み取ったことがはっきりしていたか」「組み立てが考えられていたか」「話にまとまりがあったか」「言葉づかいはどうだったか」など、聞くときの観点も示す。 ○自分の考えとの違いなどがあつたかどうかについても考えることができるようにする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）  ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）  ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ）  ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ）  【態度】粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとして	写真から読み取ったことを話す	図／新聞／発表／様子／メモ／組み立て

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	5 (書く 5)	新聞を作ろう	<p>■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	7	<p>○新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1)教科書の新聞例から、どんな工夫をしているか話し合う。</p> <p>(2)教科書の新聞の作り方を読んで、活動の流れを確認する。</p>	<p>○一般紙や子ども新聞と比較する。</p> <p>・新聞をとっていない家庭もあるので学校で準備する。</p> <p>・できれば子ども新聞のほうが読みやすい。</p> <p>○割り付け、トップ記事、題名、見出しなど、新聞を書くうえで必要な事項を確認する。</p> <p>・見出し、小見出しなどを確認する。</p> <p>・情報の重要度によって、記事の大きさや位置を工夫していることを確認する。</p> <p>・写真や図表の効果について確認する。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。</p>	新聞で伝える	新聞／資料／漢字／情報／文章／見出し／題名／発行日／発行者／トップ記事／アンケート／割り付け／様子／清書／下書き／読み返す／事実
				8	<p><b>決めよう・集めよう</b></p> <p>5. 知らせたいことを決め、調べる。</p> <p>(1)記事を書くために取材をする。</p>	<p>○相手や目的に応じて何を書くのかを考えさせる。</p> <p>○相手に応じて取材する内容を考えさせる。</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p>		
				9	<p><b>組み立てよう</b></p> <p>6. 記事の割り付けを考える。</p>	<p>○新聞の内容、目的に合わせて、トップ記事を決めさせる。</p> <p>○誰がどの記事を書くかの分担を決めさせる。</p> <p>○伝えたいことの中心を決めて、簡潔に一文を短くして書くよう指導する。</p> <p>○記事の順番や大きさなどの違い、また、どんな写真を選ぶかなどによって、読み手に与える印象が変わってくるなどについても意識させる。←メディア学習の観点</p>			
				10	<p><b>書こう・読み返そう（重点）</b></p> <p>7. 記事を下書きし、読み返して清書する。</p>	<p>○書き方がわかりやすいかどうか、交流をさせるようにする。</p> <p>○記事の見出しのつけ方やデザインの仕方によって印象が変わってくるなどについても理解できるようにしたい。←メディア学習の観点</p>			
				11	<p><b>伝え合おう</b></p> <p>8. 新聞を読み合う。</p>	<p>○クラスで交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。</p>			
					<p>○友達からの意見をもとに、自分たちの新聞を読み返す。</p>	<p>○国語の授業や他教科等の学習に生かすようにする。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	2	漢字の広場 ③ 送りがなのつけ方	<p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。</p> <p>2. 送り仮名に着目し、常体を敬体に変えてみて、話し合う。</p> <p>3. 例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。</p>	<p>○送り仮名のつけ方について理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。</p> <p>○三上『漢字の広場③ 送りがな』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。</p> <p>○「ふつうの言い方」「ていねいな言い方」「動作を打ち消す言い方」「動作がすんだことを表す言い方」などの観点をもとに、送り仮名の違いを考える。</p> <p>○動詞として使われる漢字について、活用によって送り仮名がどう変わるのかを具体的に考え、的確に読み書きできるようにしていきたい。</p> <p>○それぞれの語を使い短文を作り、比較するとよい。 (例)わたしは、きのう、本を読まなかった。 わたしは、きのう、本を読みませんでした。</p> <p>○活用語尾を送るとい送り仮名の原則的なつけ方についての理解を深め、活用についての意識がもてるようにする。</p> <p>○常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などの別に基づく動詞の語形変化の法則性を経験的に理解できるようにする。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。</p>		送り仮名／言葉／漢字／文
				2	<p>4. 動詞として使われる漢字のうち、訓読みが複数あるものを取り上げて、送り仮名によって読み方と意味を使い分けることについて習熟を図る。</p> <p>5. 動詞として使われる漢字を集め、活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ、発表する。</p>	<p>○今後の新出漢字の学習で、送り仮名がつくものについては、送り仮名に注意して書くことができるよう、この教材で意識化できるようにしておく。</p> <p>○発表に際しては、意味の通る短い文で書き表すようはたらきかけたい。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字	<p>△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	3	<p>6. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。</p> <p>7. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。</p>	<p>○社会科と関連づけて、指導する時期や内容を意図的・計画的に位置づけるようにする。</p> <p>○都道府県について知っていることを発表する。</p> <p>○社会科における都道府県の名称と位置についての学習と関連づけて指導する。</p> <p>○47ある都道府県名の読み方を確認し、覚える。</p> <p>○新出漢字の書き方を学ぶ。</p> <p>○正しく漢字が使われているかを確認め合う。</p> <p>○互いの文のよいところを発表し合うようにする。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。</p>		漢字／文／手紙
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	4・5	<p>8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>9. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>10. 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○p.106の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。</p> <p>○絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。</p> <p>○絵に描かれたことと、言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。</p> <p>○席の近くの友達と、クラスの友達のよいところについて、話し合うとよい。</p> <p>○自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。</p> <p>○条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。</p> <p>○敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。</p> <p>○正しく漢字が使われているかを確認め合う。</p> <p>○互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。</p> <p>○送り仮名の使い方や都道府県名に用いる漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>		言葉／理由／意見／文章／暗唱

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9～10	9 (書く2)	六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら、二つの場面を比べて読み、読んだ感想を友達に伝える。						
		一つの花	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、生きることを喜び、生命を大切にすることを大切にする心をもつことについての考え方を深める。</p>	<p>1</p> <p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p><b>確かめよう</b></p> <p>1. 初読の感想をまとめる。</p> <p>(1) 登場人物や、作品で描かれている時代設定などを確かめる。また、その中でどのようなできごとが起こっていったのか、場面の様子を大きく捉え、作品の全体像を把握する。</p> <p>(2) 戦争中の場面について、お父さんとお母さんの、ゆみ子に対する思いの違いを話して話し合う。</p> <p>2～4</p> <p><b>考えよう</b></p> <p>2. 戦争中と十年後の場面を比べながら、ゆみ子の様子と、お父さんとお母さんの思いを読む。</p> <p>5・6</p> <p>・それぞれの場面の内容についてノートにまとめる。その時の、お父さんやお母さんの願いや気持ちにも想像する。</p> <p>7</p> <p><b>深めよう</b></p> <p>3. 題名の「一つの花」と、文章の中の「一つだけのお花」や「コスモスのトンネル」という言葉が、どのようなことを表しているか考え、話し合う。</p> <p>8・9</p> <p><b>広げよう</b></p> <p>4. 心に残った場面やできごとをはっきりさせ、この物語の感想文を書き、友達に伝える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○場面を比べながら人物の思いを想像して読み、感想文を書くという単元の見通しをもたせる。</p> <p>○(1)登場人物や時代背景、できごとなどを確認させる。(2)戦争中の場面について、お父さんとお母さんの、ゆみ子に対する思いの違いを話し合う。思いは、それぞれの人物のせりふや、ゆみ子に対する行動などに表れるので、そうした叙述に着目するとよい。</p> <p>○「ゆみ子のしたこと」や「お父さん・お母さんのしたこと」は、本文中から具体的に(要約して)引用できるが、「願いや気持ち」は、本文にある場合と、読み手として想像する場面がある。後者の場合は、前後の、登場人物の言動や状況を根拠として想像を膨らませる。</p> <p>○「ちがうところ」については、「戦争中」にはなかったこと、あるいは、「十年後」にはできるようになったことなども考慮に入れる。</p> <p>○p.120の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。</p> <p>○単なる思いつきや感想ではなく、前時までの学習を踏まえて、根拠をはっきりさせながら考えを発表し合う。</p> <p>○戦争中の場面では「一つ」「一つだけ～」などの言葉が頻出している。十年後では、「いっぱい」「お話ししているかのように」「お肉とお魚と、どっち～」となっている。「戦争中」と「戦後」をとおして「一つ」の意味を考えてみる。</p> <p>○「ここが大事」に「感想文の書き方(れい)」がある。全体を「始め」「中」「終わり」に分けて組み立てを考える。教科書にある二例はともに「中」部分の一部である。感想の中心は「中」にあるので、内容を一・二点にしぼり、特に心に残った場面やできごとについて書くようにする。</p> <p>○伝える相手は友達である。互いに物語の内容は知っているという前提である。初発の感想と読み深めた後の感想の違いを意識して、自分の思いや考えがわかるように書くようにする。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ)</p> <p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書くようにしている。</p>	感想文の書き方(れい)	文／言葉／漢字／物語／お話／場面／感想文／始め／題名／文章／中／終わり／比べる／登場人物／あらずじ	



月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	6 (書く 6)	七 自由に想像を広げて書こう	■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。						
		「ショートショート」を書こう	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ  ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	1・2  3  4・5  6	○教科書を読んで活動の流れを知り、学習の見通しをもつ。  <b>決めよう・集めよう（重点）</b> 1. 不思議な言葉を作り、想像を広げる。 (1) いろいろなものの名前などを十個探して書く。  (2) 言葉の一つを選び、その言葉から思いつくことを自由に書く。  (3) 言葉を組み合わせて、不思議な言葉を作る。  (4) 不思議な言葉から想像を広げる。  <b>組み立てよう</b> 2. 設定や物語の展開を考える。  <b>書こう・読み返そう</b> 3. 想像を広げながら、「ショートショート」を書く。  <b>伝え合おう</b> 4. 友達と読み合い、感想を伝え合う。   ○物語作りの学習を振り返る。	○学習の流れを知り、単元のゴールを明確にする。児童に「書きたい」という気持ちが生まれるよう言葉がけをする。 ○巻末付録「レモン自転車」を読み、「ショートショート」とはどんなお話か、どんなおもしろさがあるかを確認してもよい。  ○まずは思いつく名詞を十個ワークシートに書く。書く名詞に関連性や規則性をもたせる必要はない。自由に楽しんで書かせたい。  ○名詞の中から一つを選び、思いつくことを自由に書く。こちらも書く言葉に制限などは設けず、自由な発想を大事にして書かせたい。 ○不思議な言葉が完成したら、そのものの絵を描いてさらに想像を膨らませるとよい。 ○一人で考えるのではなく、二人組やグループでの活動をクラスの実態に応じて取り入れる。友達の意見を聞くことで、発想がさらに広がることも期待できる。 ○ワークシートに欄はないが、「よいこと」「悪いこと」以外に思いついたことも書いてもよい。  ○ワークシートにそって「中心人物」「登場人物」「いつ」「どこで」「どんなことが」など、場面設定や展開を考える。これまで学習してきた教科書教材を教師が例として板書してもよい。 ○ワークシートの設問「それから？」にそって展開を考える。また、前時のワークシートを見直ししながら、結末を決める。友達とヒントを出し合いながら考えてもよい。  ○話のまとまりを意識させる。 ○場面の様子や会話文、心の声を書きたすように促す。 ○場面ごとに段落を変えるなど、段落を意識させる。 ○文章量はクラスの実態によるが、「ショートショート」であるということを踏まえ、400字程度にしたい。クラスの様子や児童の実態に合わせて、字数は増減させる。 ○時間があれば、挿絵を描かせてもよい。  ○交流し、友達の作品の内容面・記述面、両方で感想を言わせる。 ○コメントカード、本の帯などクラスの様子に合わせて活用して、交流させる。 ○交流の観点（不思議な言葉のアイデアや結末のおもしろさ・会話文や登場人物の心情の表現など）を決めて交流させるとよい。  ○完成作品は、2週間程度学校図書館に置き、異学年の児童が読めるようにする。その際、感想カードを記入してもらうようにすることで児童の意欲も向上する。  ○振り返りでは「何を学んだのか」「どこを工夫すると、よりよい作品ができたのか」などについて、学習過程を振り返れるようにする。	◎【 <b>知技</b> 】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）  ◎【 <b>思判表</b> 】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）  【 <b>態度</b> 】積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。	不思議な物語を作る	ショートショート／物語／漢字／中心人物／登場人物／会話／場面／始め／中／終わり

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	1 (書く 1)	「月」のつく言葉	<p>△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	1	<p>1. 教材文を読み、「月」の呼称について知る。</p> <p>2. 教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり、さらに「月」に関わるさまざまな言葉や表現を調べてノートに書き、友達と交流する。</p>	<p>○教科書の写真や理科図鑑などを活用して、さまざまな「月」の呼称について知らせる。</p> <p>○辞典を利用して調べる方法を身につけさせる。また、その結果を、互いに交流させる。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関する言葉を集めようとしている。</p>		月のつく言葉／国語辞典／漢字